

マ行～ワ行

(INDEX)

<松尾恵利子>

桜ヶ丘銅鐸とコレクション展示室 (2020.10)

<松尾良隆>

城歩きのすすめ(1) (2019.7)

城歩きのすすめ(2) (2019.8)

<Yasuko>

戦時下の小学校(国民学校)での教育勅語の思い出 (2017.5)

<山田かかし>

熟年ボランティア (2014.9)

<ゆいまーる>

大阪市立東洋陶磁美術館は私のオアシス (2016.1)

日本生まれのガラスペン (2016.12)

『暗い時代の人々』 (2017.9)

石牟礼道子さんと「苦海浄土」 (2018.11)

石垣りんさんの詩 (2019.7)

コロナの時代に (2020.7)

お隣の国の言葉 (2020.12)

<ゆきうさぎ>

混声合唱組曲「悪魔の飽食」をうたう (2017.10)

うたごえ運動創立 70 周年記念「日本のうたごえ祭典」に参加して (2019.2)

<吉岡高志>

人生色々、我が人生の幸運な体験 (2014.9)

<よたろう>

我が家の西神ニュータウンライフ (2014.11)

私の故郷～新潟県上越市～紹介 (2015.4)

ソフトボールを楽しむ (2018.10)

<羅臼昆布>

アベさん！大変ですよ『あなたの知らない食の劣化』 (2020.3)

<ラベンダー>

「やんばるの森」の日常を取り戻すために… (2016.1)

原発事故から12年「3.11子ども甲状腺がん裁判」(2023.4)

<Y>

人形劇で牡丹燈籠 (2014.10)

『天空の蜂』を観て (2015.10)

<童わらべ 光子>

ひたすらの善意 (2017.12)

桜ヶ丘銅鐸とコレクション展示室 松尾恵利子(櫻野台) 2020.10

令和元(2019)年11月2日にリニューアルオープンした、神戸市立博物館には行かれましたか？ 新設されたコレクション展示室には、「桜ヶ丘銅鐸・銅戈」が国宝1件21点として常時展示されています(右記写真)。

桜ヶ丘の青銅器は、昭和39(1964)年12月10日、神戸市灘区桜ヶ丘町の丘陵斜面で壁土取り作業中の建材店員により発見されました。大小14個の銅鐸と7本の銅戈からなります。



銅鐸とは、青銅で作られ、内部に舌(ぜつ)を吊り下げたりして単音を出す楽器として使われました。のちには、祭りに使う道具として大型化し、同時に宝物として尊重されたと考えられています。

出土した銅鐸のうち2個(4号鐸と5号鐸)には、トンボ・クモ・トカゲ・魚をくわえた水鳥・カメなどの小動物のほか、人が狩猟している図、米つきの図あるいは「I」字型の道具を持った人物の図などが描かれており、絵画銅鐸とよばれています。専門家の先生によると、桜ヶ丘銅鐸は歴史の教科書でお馴染みの伝香川県出土の銅鐸に似た絵があり、それに勝るとも劣らない最優秀品だとのこと。

出土した青銅器群は、「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」として昭和45(1970)年5月25日、国宝に指定されました。発見当時、神戸市には保管できる施設がなく、国は東京国立博物館で保管することを主張したそうです。関係したさまざまな方のご努力により、結果的に須磨の離宮公園内に展示館をつくり保管されることになったのだそうです。神戸の宝である「桜ヶ丘銅鐸・銅戈」が神戸に残ったのにも、秘められた歴史があったのです。

経緯を学んでいただけに、令和元(2019)年11月にリニューアルオープンした神戸市立博物館の「コレクション展示室」で、荘厳な趣で「桜ヶ丘銅鐸・銅戈」が展示されているのをみた時の感動は大きかったです。

関心のある方は、是非一度のぞいてみて下さい。コレクション展示室には、他に重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」専用鑑賞室があり、また国内有数の南蛮美術や古地図など約7万点のコレクションがテーマ別に順次展示されます。300円の別料金が必要ですが、65歳以上は無料です。

城歩きのすすめ(1)

松尾良隆 (櫻野台) 2019.7

城跡は全国に3万~4万あるといわれます。ほとんどが中世の「土の城」です。兵庫県には1450を超える城跡があり、このうち22城が国の史跡に指定されています。22という数は、北海道と並んで全国第1位を占めます。ひょうごツーリズム協会では「兵庫はお城、日本一」というキャンペーンを展開しています。なお、日本百名城に兵庫から5城が、続日本百名城には3城が選ばれています。以下、2回にわたり私がおすすめする県内の城跡とその見所を紹介します。

まずは姫路城と但馬竹田城です。姫路城の内曲輪(うちぐるわ、内堀内)では、建物に目を奪われがちですが、石垣を注意深く観察しましょう。池田輝政時代、その前の羽柴秀吉時代、後の本多時代、江戸の修理・明治以降の修理石垣など、築かれた時期による違いに気づかれることでしょう。意外によく遺っているのです。また、中堀跡をめぐる中曲輪の整備がよく進んでいることに驚かれることでしょう。中曲輪も含めて国の史跡なのです。

竹田城は全国に二つあり、大分県のを岡城または豊後竹田城、兵庫県のを但馬竹田城といいます。天空の城として近年大注目を集め、雲海に浮かぶ壮大な石垣群が魅力的な城跡です。420年ほど前に廃城と

なった城で、当時の石垣がよく遺っています。でも、すべてが昔の石垣である訳ではありません。40～45年ほど前にかかなりの範囲で石垣の修復と積み直しが行われています。注意を要するところです。

次に豊岡市の此隅山(このすみやま)城と有子山(ありこやま)城・出石(いずし)城です。此隅山城は但馬守護山名氏の居城で、多数ある尾根筋全体に数多くの曲輪を築いています。山名氏最後の城が有子山城で、山頂の一部に石垣が築かれ、出石の町全体を眼下に見わたすことができます。有子山の麓に近世の出石城が築かれています。出石では、中世から近世への城の変遷をすぐ近くで見ることができるのです。山上の中世の城と麓の近世の城という対比は、龍野でも見ることができます。兵庫ならではの見所です。(次号につづく)
(今回初寄稿されました松尾さんは、櫻野台にお住いの元高校教諭(社会科)の方です。編集委員)

城歩きのすすめ(2)

松尾良隆 (櫻野台) 2019.8

但馬山名氏に対して、播磨守護赤松氏の居城が白旗城と置塩城です。白旗城は南北朝期に、置塩城は応仁の乱後に築かれました。ともに戦国期まで使われた山城で、一部に低い石垣が築かれています。城山の高さや城跡の規模の大きさには目を見張るものがあります。

神戸市内では、滝山城と端谷城を紹介します。滝山城は新神戸駅の裏山が城跡で、六甲山へのハイキングコースとなっています。松永久秀ゆかりの城跡で、眼下に神戸の街と港を見下ろすことができます。端谷城は西区寺谷にある衣笠氏の城跡です。羽柴秀吉による三木城攻めの際、1580年に落城しました。小規模な城跡ですが、地元の方々の熱心な活動によってよく整備・保存されています。尾根を断ち切る2つの堀切が印象的で、特に本丸北の大堀切の規模の大きさは圧倒的で、ここまでやるかという意味で感動的ですからあります。2005年、神戸市による発掘調査で、本丸北西隅から蔵跡と十数領の甲冑が出土することも有名です。



最後に篠山城と明石城をあげます。篠山城は徳川氏による天下普請で築かれた城で、昭和19年に焼失した本丸御殿(太書院)が復元されています。南と東に二つ残る馬出という施設が見所です。明石城は今年築城400年を迎え、重要文化財に指定されている2つの櫓が有名です。この2城は正保城絵図が残る城跡です。正保城絵図というのは、1644年に幕府の命令で制作・提出された城絵図の最高峰です。もとは160点程度あったと考えられますが、いま国立公文書館内閣文庫には63点しか残っていません。正保城絵図と比較しながら篠山・明石の城と城下町を歩くと、往時の姿をよりリアルに感じられることでしょう。

県内の城歩きには『ひょうごの城 新版』(2011年2月、神戸新聞出版センター)がおすすめです。健康ハイキングを兼ねて県内の城跡・山城跡を訪ねられてはいかがでしょうか。兵庫の城跡は魅力たっぷりですよ。

戦時下の小学校(国民学校)での教育勅語の思い出 春日台 Yasuko(2017.5)

敗戦後70余年、爆弾、焼夷弾に追いかけることなく、「平和」な時を過ごして参りましたが、今「戦争の放棄」を改めて叫びたくなる世の中になってきています。

戦時中 為政者の政策で、思想(教育)を押しつけられた国民も洗脳されて、初めは変だと思っていたのですが、私は子供だったので、当たり前として受け入れていました。

今、教育勅語が話題になっています。その教育勅語から思い出すことが沢山あります。

国の祝日・四大節、すなわち

- ・四方拝(元旦)
- ・紀元節(2月11日 神武天皇が橿原宮で即位の日)
- ・天長節(4月29日 昭和天皇の誕生日)
- ・明治節(11月3日 明治天皇の誕生日)



には、学校で式があり、校長先生がこの教育勅語を読み上げていました。

式の日には、私たちは改まった服装で登校しました、式の服を持っていたのです。

校庭の一角に奉安殿があり、平素は教育勅語、御真影が安置されており、式の時、校長先生が改まった服装(モーニングなど)、白い手袋で講堂の壇上正面にこれらを移します。私の記憶では、カーテンは白い鳥の羽で綴られていて、とてもきれいでした。当時の言葉で「神々しく」してありました。校長先生は、これを捧げて持ち、後づさりして歩かれました。読むのを間違えれば、校長先生は「首」と言われていました。生徒は頭を垂れて勅語の最後の「御名御璽」を聞くと頭を上げてよい、と言われていました。このように式の時に勅語が読まれていたのです。

校庭に国旗掲揚台(宮城、今の皇居の方位に)があり、朝礼の時にも先生生徒一同が国旗に向かって忠誠を誓っていたように記憶しています。

ここまでは神戸の国民学校の体験です。

神戸は、3月17日と6月4日にアメリカ空軍B29爆撃機による大空襲がありました。街は焼野原となり、私の通っていた西須磨国民学校は閉鎖され、確か区役所が入っていたと思います。空襲の被害と私たち家族の当時の生活については、以前「神戸大空襲の記憶」に書きました。

私は、疎開先の大阪府中河内郡の高安小学校に転校しました。その4年生女子クラスでのこと。先生が教室に来られるまで教育勅語を何度も暗唱して待つことになっていました。ある日、先生が来られてそれを聞き、「勅語が短い！」と叱られました。途中を飛ばして読んでいたのです。そんな思い出もあります。

学芸会ができたのは、小学校1年の時だけ。私は「桃太郎」の劇に出ましたが、鬼たちは米国・英国の旗の冠で「鬼畜米英」を表していました。

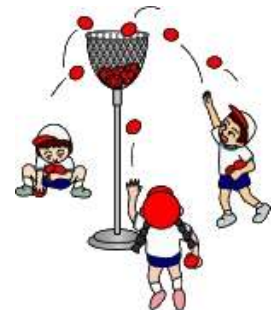
この時代、国民は逆らうこともできず、国の方針の下で、学校も隣保(近所の組織、隣組)も、国民全体が同じ方向に持っていかれたのです。

熟年ボランティア

山田かかし(西神地区在住、70歳、男性) 2014.9

三題話から。

① 通勤途中の遊歩道で、毎朝のように一人黙々と草むしりをしている年配男性を見かけていた。お陰でその遊歩道はいつ通っても清潔感があり、スラリと伸びたケヤキの木々が夕焼けに映えるとき、帰宅途中の疲れを一度に忘れさせてくれた。朝その年配者を見かけなくなってからもう随分となる。ご病気になられたのであろうか。



② 家人から自治会脱会者が年々増えていると聞く。高齢者所帯が増えていることに加え、班長にあたる理事の仕事が順番に回ってくるのに負担を感じているそうだ。家人でさえ「うちもどうしようか。次に理事が回って来るときは〇〇歳だもんね」などという。

③ 各地で災害が頻発している。その都度、ボランティアの若者たちの元気に後片付けを手伝う姿が報道される。ほっとした明るい気持ちになる。阪神淡路大震災の時に生まれた新しい社会への「希望」である。

歳をとると、他人の公共心の欠如が目につきやすい。自分の若い頃のことは忘れて一人憤慨したりする。歩きながら菓子をはおぼり、その空き袋をポイと路上に捨てる高校生。分別収集のゴミ置き場に回収日でないゴミ袋を置き知らん顔をしているどこかの誰か。挙句には、地下鉄でふたり分の座席の真ん中にどんと座り、前に立っている人のために詰めようとはしない人まで、腹のたつ材料は一杯ある。この社会を、この地域を住みやすい街にするためには、自分の利益都合ばかり考えてはいけい。街全体がお互いのことに配慮し助け合う「希望」の精神に満たされるようにならなければならない。

この西神地区でも、団塊世代を中心に社会の第一線からリタイアした世代が増えている。若い者に負けられないように、道路や公園などの「草取りボランティア運動」を組織できないものであろうか。私も貧者の一灯をその奉仕に捧げたいと思っているのだが。

大阪市立東洋陶磁美術館は私のオアシス ゆいまーる（櫻野台）2016.1

国の内外 家の内外で毎日ストレスを感じない日はないほどです。

そんな私を元気にしてくれるもの、なぐさめてくれるもの、心が弾むものはいくつかあります。映画や読書、ギターを弾いたり歌を歌うこと、散歩や体操教室で汗を流すこと…

またこの1年は 美術館や博物館で多くの心に響く作品に巡り合い幸せでした。なかでも私が特別に好きな美術館は大阪中之島の東洋陶磁美術館です。中国や朝鮮の陶磁器のすばらしいコレクションがあります。気品のある中国の青磁、素朴で上品な李朝の白磁はとても魅力的で 私はいつも恋人に会いに行くような気持ちで美術館に向かいます。



静かな館内で作品に対峙すると絵画とも彫刻とも違う 不思議な感情を覚えます。何百年も前に名前もわからない陶工たちが作った作品が圧倒的な存在感を持って語りかけてくるのです。そして日本の陶磁器、そして文化は中国や朝鮮と切っても切れない関係にあると感じます。

美術館は中之島にあり、キタやミナミの喧騒とは無縁で緑と二つの川に囲まれています。

日頃の生活からちょっと離れて ゆったりした時間を過ごしてみませんか。

(写真は栃木県・濱田庄司記念益子参考館展示品)

日本生まれのガラスペン ゆいまーる（櫻野台）2016.12

みなさん ガラスペンをご存じですか？

私は先日、誕生日プレゼントに職人さん手作りのガラスペンを頂き、初めて手にしました。

「山栗」、「山葡萄」、「深海」という3種類のとても日本的な色のインクも一緒でした。

ガラスペンは日本生まれなんです。1902年 風鈴職人の佐々木定次郎さんが考案し、今やイタリアをはじめ世界中で愛されています。ペン先に溝があり「毛細管現象」によってインクが吸い上げられます。1回インクをつけたらハガキ1枚分書けるそうです。

恐る恐るペン先にインクをつけて 紙の上を滑らしてみました。金属のペン先に比べて軽くてなめらかで、とても書きやすいのです。なんといってもペンを持つ気持ちが違います。少し緊張 気味に、でもペン先に心をこめて字を書きます。心が落ち着きます。なぜか嬉しくなってきました。

文房具屋さんには季節ごとに素敵なハガキや便箋、封筒が並んでいます。今までメールや電話で済ませていた要件も 相手を思いながら、ゆっくりとガラスペンでハガキや手紙を書いてみようと思います。

きょうは、秋らしい「山栗」のインクがいいでしょうか。

『暗い時代の人々』

ゆいまーる (檜野台) 2017.9



“最も暗い時代においてさえ、人は何かしら光明を期待する権利を持つこと、こうした光明は理論や概念からというよりは むしろ少数の人々がともす 不確かでちらちらゆれる、多くは弱い光から発すること、またこうした人々はその生活と仕事のなかで ほとんどあらゆる環境のもとで光をともし、その光は地上でかれらに与えられたわずかな時間を超えてかがやくであろうということ”

これは ハンナ・アレントの「暗い時代の人々」の冒頭です。

私がこのたび読んだのは 森まゆみ著の「暗い時代の人々」です。ハンナ・アレントのタイトルから取られています。そして 暗い時代とは 満州事変(昭和6年)～戦争終結(昭和20年)を指しています。

この本では西村伊作、古在由重、竹久夢二、山本宣治など9名の人々を取り上げていますが、なかに私が全く聞いたことがない2人の名前がありました。

斎藤雷太郎と立野正一です。斎藤は1903年生まれで10歳で小学校を中退、いろいろな仕事を経て京都松竹撮影所の大部屋俳優になります。こつこつ資金を貯めて、1936年(昭和11年)7月 文化新聞「土曜日」を創刊。執筆者に弁護士・能勢克男、哲学者・中井正一を迎え、読者は小学校、中学校卒業の一般庶民を目標にして、良い内容を平易に書いて親しみやすいものにしました。若き日の淀川長治さんも執筆しています。

書店だけでなく喫茶店にも置いてもらい読者を広げました。中でも「土曜日」をささえたのが 四条木屋町の喫茶店「フランソア」でした。元画学生で河上肇の書生をしていた立野正一の店です。学生をはじめ、作家、音楽家、映画人などが常連でした。「土曜日」は映画やファッションの記事の間に政治や社会の記事を載せていましたが、1937年(昭和12)11月 斎藤、能勢、中井が検挙され廃刊となるのです。検挙の理由は“一部ずつ見ていけばたいしたことはないが、続けてみると、反社会性の精神が流れているのがはっきりわかる”ということ。

ちょうど80年前の出来事です。

京都の喫茶店フランソアは 学生時代に誰かにつれて行ってもらったことを思い出しました。今度京都に行ったら フランソアでゆっくり珈琲を飲みましょう。斎藤さんや立野さん、暗い時代に小さな光をともした人々を思いながら。

石牟礼道子さんと「苦海浄土」

ゆいまーる(檜野台) 2018.11

私は本を読むのが好きだが 同じ作家の本を何冊も買ってしまうのは女性の作家が多い。詩人、随筆家、小説家…素敵な人たちが本棚に並んでいる。

名前や作品名を知らながらい間手に取ることがなかったのが石牟礼道子さんの「苦海浄土」だった。彼女は2018年2月に亡くなったが“1968年に水俣病が公害認定されてからちょうど50年”という新聞記事を目にして 私は本を読み始めた。

水俣に住む彼女は 患者一人ひとりを大きな愛情を持って描いた。文章は優しく 美しく そして残酷で哀しい。水俣の自然の美しさや人々の素朴で穏やかな生活が目浮かぶ。その美しい自然とともに生きている幼い子供や老人に次々に奇病が発生したのだ。

文学好きの主婦だった彼女が地元の雑誌に連載したのが「苦海浄土」のはじまりだった。マスコミにも取り上げられたが この本は水俣病の悲惨さを告発するルポルタージュではなく 人の心の深いところに響く文学作品だと思う。

私は今まで読まなかったことを後悔しつつ 石牟礼さんがこの本を著したことに感謝し 彼女の他の作品も読みたいと思っている。

古典をはじめ 読まなければと気になっている本がたくさんある。でも次々に出る面白そうな新刊 新人作家の本にも興味がある。そう長くないであろう人生の残り時間 どう配分したらいいのか 目下思案中である。

石垣りんさんの詩

ゆいまーる（櫻野台）2019.7

私の大好きな詩人のひとり、石垣りんは1920年(T.9)生まれで2005年(H.17)に亡くなっています。14歳で事務見習いとして銀行に就職、定年まで働き、家族を養い、組合活動もしながら詩を書き続けました。女性として家族の大黒柱として生活者として身のまわりのことや世の中のことを何気なくまたは鋭くそして深く。

今よりもっともっと女性の地位は低く、家庭においても職場でも私たちとは比べようがないほど苦勞されたと思います。でも彼女の詩は名前のごとく凛としていて、まっすぐに読み手に伝わります。リアリストで批判精神やユーモア精神に富んでいます。私は彼女の詩を読んでくすっと笑ったりしんみりしたり背筋が伸びたり、そして勇気づけられたりしています。

感性が鋭く世の中の不穏な空気も敏感に感じ取り、それを言葉にできるのが詩人だと思います。目の前の事に追われて鈍感になっている私ですが、「気を引き締めなさい！」と、りんさんに言われたような気がします。

1952年の彼女の詩を紹介します。

『挨拶』 — 原爆の写真によせて

石垣りん

あ、

この焼けただれた顔は

一九四五年八月六日

その時広島にいた人

二十五万の焼けただれのひとつ

すでに此の世にないもの

とはいえ

友よ

向き合った互の顔を
も一度見直そう
戦火の跡もとどめぬ
すこやかな今日の顔
すがすがしい朝の顔を

その顔の中に明日の表情をさがすとき
私はりつぜんとするのだ

地球が原爆を数百個所持して
生と死のきわどい淵を歩くとき
なぜそんなにも安らかに
あなたは美しいのか

しずかに耳を澄ませ
何かが近づいてきはしないか
見きわめなければならないものは目の前に
えり分けなければならないものは
手のなかにある
午前八時十五分は
毎朝やってくる



一九四五年八月六日の朝
一瞬にして死んだ二十五万人の人すべて
いま在る
あなたの如く 私の如く
やすらかに 美しく 油断していた

(1952.8)

コロナの時代に

ゆいまーる（樫野台）2020.7

2020年、春から初夏にかけてこの美しい季節に私たちは非常事態下でステイホームとなった。日本だけではなく世界中で。この間人々はどう行動し 何を考えたのだろうか。

わたしにとって、この期間はとても落ち着いた、静かで充実した時間だった。毎日の花を見ながらの散歩に加えて、たっぷり読書の時間がとれて多くの本を読んだ。その本の中で今も心に残る本が2冊ある。

1冊目は アルバール・カミュの『ペスト』である。題名はよく知っていたが、カミュ＝不条理＝難解 ということも手に取って見たこともなかった。読んでみると、ぐんぐん物語に引き込まれて、最後は涙が出そうになった。それは 今この非常時に読むわたしの心情が大いに影響していると思うが 読む前は悲惨な物語だと想像していた内容が、読んでみると大きく違っていたからだ。作中の主人公医師のリウーをはじめ、それぞれ事情の違う人々が、自分の身を守ることも他の人のために、自分ができることを誠実に、連帯して、ペストという災禍に対して立ち向かう姿に感動し、希望を感じた。

物語の最後はこう結ばれている。

『ペスト菌は決して死ぬことも消滅することもないものであり、数十年の間、家具や下着類のなかに眠りつつ生存することができ、部屋や穴倉やトランクやハンカチや反古のなかに、しんぼう強く待ち続けていて、そしておそらくはいつか、人間に不幸と教訓をもたらすために、ペストが再びその鼠どもを呼びさまし、どこかの幸福な都市に彼らを死なせに差し向ける日が来るであろうということ。』

2冊目は パオロ・ジョルダノの『コロナの時代の僕ら』である。作者はイタリア ローマに住む37歳の作家で物理学者。この本は4月25日に緊急出版された。まさにイタリアでコロナウイルスが爆発的に猛威を振っていた時期に書かれたエッセイである。わたしは予約して発売と同時に読むことができた。不自由な隔離生活の中で冷静に、ときには科学的に、とても美しい言葉で綴られている。イタリアで、世界で、同時に起こった緊急事態に、彼はいろいろな問いかけをしている。

『すべてが終わった時、本当に僕たちは以前とまったく同じ世界を再現したいのだろうか。』

『もしも、僕たちがあえて今から、元に戻ってほしくないことについて考えない限りは、そうになってしまうはずだ。まずはめいめいが自分のために、そしていつかは一緒に考えてみよう。僕には、どうしたらこの非人道的な資本主義をもう少し人間に優しいシステムにできるのかも、経済システムがどうすれば変化するのかも、人間が環境とのつき合い方をどう変えるべきなのかもわからない。実のところ、自分の行動を変える自信すらない。でも、これだけは断言できる。まずは進んで考えてみなければ、そうした物事はひとつとして実現できない。』

そして最後に かれはこう記している。『家にいよう。そうすることが必要な限り、ずっと、家にいよう。患者を助けよう。死者を悼み、弔おう。でも、今のうちから、あとのことを想像しておこう。「まさかの事態」に、もう二度と、不意を突かれないために。』

遠く離れたイタリアの作家に エールを送ります。

お隣の国の言葉

ゆいまーる(櫻野台) 2020.12

『マルモイ ことばあつめ』という韓国映画を観ました。

日本統治時代、朝鮮(韓国)では、名前を日本式に変える「創氏改名」、教育に朝鮮語(韓国語)を禁止するなどの弾圧がありました。その厳しい中で 誰がどのように朝鮮語を守ったのでしょうか。

この映画は 朝鮮語を集めて辞典を作ろうとした というだけで大勢の人々が投獄された「朝鮮語学会事件」を描いています。

朝鮮語を守り、国を守ることにすべてを注ぐ朝鮮語学会代表のジョンファンと、文字を読むことも書くこともできないパンスが主人公です。弾圧にめげず、全国から朝鮮語(方言)を集めるジョンファン、彼は日本語しか話せない街の子どもたちを憂い、また親日家の自分の父を恥じています。一方、二人の子どもを育てながら雑用係としてジョンファンたちと一緒に働く中で 文字を学習していくパンス。

ときには泣き、ときには怒り、でもときには笑いながら懸命にあの時代を生きた人々が描かれ、最後にはとても温かい感動をおぼえました。



ジョンファンがパンスの幼い娘に語る言葉が印象に残っています。朝鮮語ではタンポポは『ミンドウレル』、「一つの種からやがて門(ミン)の周り(ドウレ)に次々と根を張っていくという意味だよ」と語ります。それは一人から始まって次々に人々が加わるという 彼が目指している活動の姿だと思いました。

私は韓国・朝鮮に対して偏見をもっていないつもりでした。大好きな百済観音や弥勒菩薩など朝鮮半島由来の仏像たち、李朝の白磁や青磁の陶磁器は、素朴で おおらかで 優しくてそのうえ気品があります。でも私は近代の歴史を深く知らずに過ごしていました。朝鮮語(韓国語)が人々の命がけの努力で守られたことを知り、私たちが何気なく使っている言葉の重みを感じます。

日本語を話すこと、国語辞典があることは私たちにとって当たり前ですが 朝鮮(韓国)では当たり前ではなかったのです。

朝鮮語辞典は人々の努力の結果 多くの資料が守られて 1947 年に初めて完成したのです。

混声合唱組曲「悪魔の飽食」をうたう

ゆきうさぎ(竹の台) 2017.10



1981年11月に出版された森村誠一氏著「悪魔の飽食」をご存じだろうか。

戦時中、日本の関東軍防疫給水部(731部隊)が中国東北部ハルピンの平房の研究施設で、細菌戦に使用する生物兵器の研究開発を任務として、中国人等捕虜を「マルタ」と称して人体実験をおこなっていた実態を告発したノンフィクションである。

今夏、ロシアで見つかった軍事裁判の記録の中から、当事者の音声テープ・数百点の資料などをもとに構成されたNHKスペシャル「731部隊の真実～エリート医学者と人体実験」(8月13日放映)を見て、記憶を新たにされた方も多いかもしい。

私が所属する神戸市役所センター合唱団の委嘱作品として、この「悪魔の飽食」を基にした森村誠一氏の原詩、作曲家の池辺晋一郎氏と同団による編詩、そして池辺氏の作曲による全7章の混声合唱組曲「悪魔の飽食」を第10回定期演奏会で初演したのは1984年10月、もう30年あまりも前のことである。

その後、1995年から日本全国47都道府県を回る全国縦断コンサートが始まり、今年も7月に名古屋で第27回愛知公演が開催され、来年は6月に富山県での開催が予定されている。この間、3回の中国公演、2回の韓国公演、ヨーロッパ(ポーランドとチェコ)、ロシア公演、そして来年7月にはバルト3国での海外公演も控えており、神戸から誕生したこの組曲は全国へ、そして世界へと大きく翼を広げているのだ。

縦断コンサートに参加した人の多くが「一度参加するともう一度うたいたいくなる」と思い、なかにはこの曲を歌い続けることが自分のライフワークだと言っている人もおられる。なぜ、この組曲が誕生から30年あまり歌い継がれ、今も広がり続けているのか。「それは、この歌が731部隊の真実から、さらには戦争と平和の真実に肉薄した人間の真実を追求する作品としてのエネルギーを内包しているからである」と組曲の誕生秘話を記した「炎と涙の底から～鎮魂と再生のハーモニー」(かもがわ出版)に述べられている。

このように団から誕生し長い歴史を持つこの組曲を、入団して年数の浅い私はうたった経験がなかった。この合唱団の一員になったからには、是非この組曲を舞台上で歌ってみたい、そして、この組曲が持つ力をうたうことで実感してみたいと……

その願いが叶いに誕生の地、神戸で実現することになった。今年11月19日(日)開催予定の第40回定期演奏会(場所:神戸芸術センター)で、この組曲をうたいたいと集まった市民団員、そして、これまでの各地の縦断コンサートの経験者とともに演奏することになったのだ。いま公演に向けて練習に励んでいる。

この曲を仲間とともにうたい終えた時、私の胸に去来するのはどんな感情なのか。見えてくるものは…自分の中に起こるだろう化学反応に今からわくわくしている。

そして、ひとりでも多くの方にこの組曲を聴いていただきたいと強く願っている。つらく、重いテーマであるが、史実を直視し知ること、それが私たちの平和な未来への第1歩だと思うから…。

是非11月19日、演奏する私たちと会場で聴いてくださる皆さんとで、2017年神戸バージョンの混声合唱組曲「悪魔の飽食」を創り上げたいと思っている。

うたごえ運動創立 70 周年記念「日本のうたごえ祭典」に参加して ゆきうさぎ(竹の台) 2019.2

戦後間もない 1948 年に発足した日本のうたごえ運動が昨年70周年を迎えた。

平和運動、特に戦後の米軍基地強化に反対する闘いから生まれた「うたごえは平和の力」、そして「うたは闘いとともに」は職場の



厳しい闘いの中から、障害者作業所運動からは「うたごえは生きる力」の合言葉が生まれ、今もうたごえ運動の大切なスローガンとして語られている。そして、その闘い、運動の現場からたくさんのうたが生まれ、歌い継がれている。たとえば「原爆を許すまじ」、「沖縄を返せ」、「がんばろう」、「人間の歌」、「たんぽぽ」等々…

今年 1 月 18 日～20 日の3日間、東京を主に延べ 2 万人が集い、創立 70 周年記念「日本のうたごえ祭典」'命をうたおう！こころをつなごう！'が開催された。メイン企画として 19 日にとどろきアリーナ(川崎市)で行われた Human Festa と Peace Festa では、全国から集まった仲間が多彩なテーマで歌い交わした。私は、Human Festa で 840 人がそろいの赤い花を胸に「どこかで春が」と「いとし子よ」をうたった「全国女性のうたごえ合同」と、混声合唱組曲「こわしてはいけない～無言館をうたう」に参加した。その他には「全国高齢者合同」、「全国青年のうたごえ合同」、「障害者とその仲間たちのステージ」、「スクラムステージ すべての職場の仲間と連帯を」、そして「国際交流のステージ」では東アジアの友好と連帯を、と題して、韓国民族舞踊、韓国合唱団合同、東京朝鮮中高級学校合唱部が美しく澄んだ歌声を披露するなど、文字通り世代、国境を越えて人と人をつなぐステージとなった。

合唱 続く Peace Festa では、「空襲の記憶を伝える、戦争を通さない」、「焼け跡から紡いだ希望 ぞうれっしゃがやってきた」「原発ゼロの未来を 福島を忘れない」「核兵器も戦争もない世界へ」などをテーマに、うたごえ運動の中から生まれたうたをはじめとして、たくさんのうたが会場に響きわたった。また「基地いらない！沖縄の闘いと連帯しよう」では、元名護市長の稲嶺進さんが指揮をされた「沖縄を返せ」に会場全体が沖縄への思いをひとつにした。うたごえ運動のこの 70 年、人間らしく生きるためのさまざまな闘いのなかで、多くの歌が生まれ、仲間をつなぎ、前へ進むための力となってきたことに改めて思いを馳せた。参加者の多くは、この日の感動を日本各地の自分の住む街に持ち帰り、またそれぞれの新しい一歩を歩み出すことだろう。

このほか 18 日には 70 周年記念音楽会、20 日には全国和太鼓と民謡・民舞まつり、そして各部門に分かれたコンクール形式の合唱発表会などが開催された。

私の拙いレポートでは、うまく伝えられない「日本のうたごえ祭典」のすばらしさ…毎年各県で開催され、その地域の特色ある企画も魅力のひとつだ。今年 11 月 29 日(金)～12 月 1 日(日)には、京都で開催予定。どうぞ、ぜひ一度ご参加を！

人生色々、我が人生の幸運な体験

吉岡高志（竹の台）2014.9



これまでの私の人生で幸運だったと思うことについて書いてみたいと思います。

まず一つ目は就職です。私が就職活動をしていた昭和43年(1968年)の就職戦線は、学生側の売り手市場でしたが、私は学生運動に参加しており、また身体も丈夫でなかったため、まともな就職先を見つけるのはなかなか困難でした。それでも当時労働時間が一番短い業界であった保険会社(週33時間労働を標榜)に狙いを定めて就職活動をしました。予想外の展開で、損保会社に就職できました。人生最大の関門である就職が出来ま

した。

二つ目は、医学の進歩に命を助けられたことです。先天的な心臓病を持っていたのですが、就職も出来、見かけ上は元気に暮らしていました。しかし広島に転勤となり病院で検査を受けてみると、心臓手術が必要と言われ、すぐに手術(46歳)を受けました。主治医は「もう少し放置していたら手術適応はなく、60歳以降は外出もできない体になっていたよ」、と言われました。医学の進歩のお陰で元気で長生きできるようになりました。

三つ目は、2つの大震災に遭遇しながらも、大きな被害もなく切り抜けられたことです。阪神大震災の時は、宝塚市の一戸建ての家に住んで大震災に遭遇しました。家具が倒れてきて、寝ていた娘が家具の下敷きになるところでしたが、幸運にも避けられました。また、転勤で1995年から横浜に住んでいましたが、2011年3月11日、埼玉に住んでいる娘宅を訪問しようと首都高速道を走行している時に、東北大震災に遭遇しました。丁度隅田川の橋の上を通っている時でしたので、大きな揺れで隅田川に車ごと転落してしまうのではと、同乗していた妻と観念しました。幸運にもその後揺れが収まり、何とか無事に娘宅に到着できました。二度も大地震に遭遇しましたので、「地震には自信がついたなあ」と思っています。

私のこれまでの人生の幸運体験について書き連ねてきましたが、妻が私の顔を見て言います。「あなたの一番の幸運は、私と結婚出来たことでしょうか!」。私はノーコメントです。

我が家の西神ニュータウンライフ

よたろう（竹の台）2014.11

私と妻の勤務地の関係から、住むなら西神ニュータウンと決めていたが、宅地分譲は宝くじのようなものでなかなか抽選に当たりませんでした。

ところが、結婚15年目にして初めて子ども(長男)が授かるのと同時に、宅地分譲も当たりダブルラッキーのなか、昭和62年春、我が家のニュータウンライフの始まりです。

西神ニュータウンは、西区の中心地としての機能を集積させるため、工業団地、農業公園はもとより、区民センター、警察署、総合病院、デパート等、各種の施設を総合的に誘致した恵まれた街です。

このように恵まれたニュータウンでの我が家の平日は、妻は持ち帰りの多い仕事、家事、育児で多忙な毎日、私はほとんど深夜の帰宅、子どもは義母の世話を受けながら保育園・学校の合間に塾通い。

休日は、妻は持ち帰りの仕事、私は、子どもを少年野球、卓球、スケート、水泳等にできるだけ連れ出し、日ごろの係わりを補う生活が続きまして。

今ではニュータウンに居住して27年となり、唯一の一人っ子も成人して京都に就職。

妻は退職して仕事との係わりを一切たち、9条の会、婦人大学、新婦人の会、ステンドグラス、油絵、革細工、手品、絵本の読み聞かせ等々について、周囲の皆様のご支援をいただきながら、楽しい、多忙な毎日を送っている。

私は、退職後、このように見事に変身できる妻に対して、感心、嫉妬、羨望を感じながら、週に4日程度の仕事をしつつ、日曜日には平均年齢65歳のソフトボールチームで、アフタービールと合わせて楽しんでいます。

妻と一緒に行動は、海外旅行や、毎日の一時間弱のウォーキングです。

このようなとき、いつも感心させられるのがご婦人方のパワーで、ヨーロッパ等の長距離旅行でも80歳前後のご婦人が一人で参加されていたり、また、ウォーキングの時でも歩いているのはご婦人方が9割です。

高度成長期の昭和57年に入居を開始した西神ニュータウンも、今では急激に少子高齢化が進み、交流・賑わいの低下、空家の増加、住宅や各種施設の同時期の老朽化等、様々な課題が懸念されるどころです。

このようなオールドタウン化を防止し、思いやりと活気に満ちた熟成ニュータウンとするため、ご婦人方のパワーへの期待はもとより、住民が一体なって取り組んでいく必要があるのではないかと思う今日この頃です。

私の故郷～新潟県上越市～紹介

よたろう（竹の台）2015.4

私の故郷は、新潟県の上越市です。

折しも、この3月14日に北陸新幹線の金沢・長野間が開通し、上越市内に「上越妙高駅」が設置され、今後の交流人口の増加、経済の活性化が期待されているところですが、これを機会に、上越市を紹介させていただきます。

上越市は、新潟県の南西部に位置し、旧直江津市と旧高田市の市街地を中心に広大な平野が広がり、北には日本海、南には妙高山、黒姫山等の山々を望む、人口約20万人の街です。

日本でも有数の豪雪地帯で、積雪の多かった幼少のころは、平野部でも2mの積雪は常で、自動車は完全にストップ、移動手段はただ歩くのみでした。商店街等で軒先を出し、冬の歩行者空間を確保した「高田の雁木(がんぎ)」は有名です。

また、明治43年に日露戦争に勝利した日本陸軍の研究のために来日したオーストリアのレルヒ少佐が日本に初めてスキーを伝えたのが高田の金谷山(かなやさん)です。

城址としては、戦国の武将「上杉謙信」の居城があった春日山城址があり、そこから南東約4kmには、徳川家康の六男、「松平忠輝」の居城として築かれた高田城址があります。

高田城址には、3,500本の桜の木があり、夜のお堀に映る桜とぼんぼりの明かりが素晴らしく日本の三大夜桜の一つに数えられ、雪国の春を喜ぶ人たちが賑わいます。また、夏には外堀が東洋一といわれる蓮の花で埋め尽され、幽玄の世界が広がります。

上越の人々の性格は、雪に閉ざされた冬によりつくられる「誠実で忍耐強い人」が多いと言われており、明治時代には特に多くの偉人を出しています。日本の郵便制度を確立した「前島 密」、近代日本画家の草分け



「小林 古径」、研究を重ね自家葡萄園で本格的なワインを造り、日本のワインの父と言われた「川上善兵衛」等がいます。これらの記念館やワイン工場を訪ねるのも一考です。

上越市から少し足を伸ばして(車で 30 分程度)、妙高高原の温泉地帯でスキーやゴルフ、テニスを楽しんだり、野尻湖での避暑も最高です。;

このような故郷で、107 歳になる私の母が認知症もなく元気に過ごしています。

私も、母の年齢まで健康長寿を保ちたいと努力してきたのですが、昨年の暮れに急性心筋梗塞で倒れてしまい、改めて母の強さに感心したところです。

今は、体調も順調に回復しています。発病時には早期の緊急対応をしてくれた妻をはじめ、ご心配いただき大変お世話になった皆様方への感謝の念でいっぱいです。

これからの人生は、一病息災を旨に、何事も緩やかに、楽しく過ごしていきたいと思っています。また、時々故郷にも帰りたいたいと思っておりますので、よろしかったら是非一緒にしませんか。

ソフトボールを楽しむ

よたろう (竹の台)2018.10



小学校の頃から野球が好きで、50 歳代の一時期を除いて 70 歳になる現在まで何らかの形で、野球やソフトボール楽しんできました。

現在は、竹の台ソフトボールチームで、毎週、日曜日の午前中、竹の台小学校のグラウンドで約2時間の練習をし、また西区のリーグ戦にも参加しています。

竹の台チームに入ったきっかけは、長年の仕事を定年退職し自由時間が増えるにあたり、今後どのように過ごそうかと考えていたところ、ご近所の人からお誘いを頂き、仲間に入れていただきました。

竹の台チームは、平成元年ごろに結成され現在まで続いているチームです。部員数は現在 24 名ですが、高齢化し 70 歳前後の人が 70%を占め、若い人は 30 歳後半の4名だけです。そのため西区のリーグ戦もあまり勝てなくなってきました。

西区のリーグは7チームあるのですが、どこも高齢化傾向にあり、勝敗よりも楽しむことに重点を置き、守備は規定通り9人ですが、打撃のほうは参加者全員が打ってもよいことになっています。

練習の時に、打球を素手で受け指の根元が裂けたり、ピッチャーをしているときに強い打球を顔面に受けたこともあります。好きなソフトボールはやめられません。

チーム仲間は、ソフトボールだけでなく色々な交流や活動を活発に行っています。例えば、練習後に 500 円会費で近くの公園にてちょっと一杯、年中行事の新年会、花見会、春のわらび採り、夏のバーベキュー会、秋の旅行や忘年会、さらには近隣の山々へのハイキング、ゴルフ、神社参り等に加え、地域の児童公園の月2回の清掃活動など盛り沢山です。

今、各チームの仲間だけでなく、西区リーグの仲間全体の人を対象に、ソフトボール以外の交流を検討してはどうかとの話も上がっています。

ソフトボールに少しでも興味がある方、日曜2時間の汗をかき、その仲間と様々な交流をご一緒に楽しみませんか。

アベさん！大変ですよ『あなたの知らない食の劣化』

羅臼昆布(櫻野台)2020.3

2月6日(木)NHKの番組『所さん！大変ですよ。あなたの知らない化学調味料の謎』が放送されました。

その中で、味の素等の調味料はさとうきびを発酵させて「グルタミン酸ナトリウム」という「うま味」成分から作っているのだから味噌やしょうゆと同じ発酵食品です。味の素は化学調味料ではないと定義されました。



また、国際ジャーナリストのモーリー・ロバートソンは『「昆布から出汁をとれ」となるとどこにツケがまわるか主婦が働けなくなる』とまで言っていました。

化学調味料等の添加物をふんだんに使っている大企業側に忖度されたが番組内容でした。テロップで小さく「*諸説あります」と表示されていましたが、公共放送の立場でこんな雑な偏った番組内容に怒りを感じました。

『化学調味料は遺伝子組み換え技術を用いて、微生物に生産させる添加物が多く濃厚で人口的な味をもたらす、この作られた味覚に慣れると本物の味を見失ってしまいます。』という説もあります。

最近の日本の食は、欧米化・自給率の低さ・遺伝子組み換え・ゲノム編集・種子法廃止・農薬や化学肥料の大量使用・畜産で投与される抗生物質とホルモン剤・そして食品添加物・・・等々ますます劣化されていくと言われています。

このように日本食がもう滅びかけていて、何とか保護・継承しないといけないからとの理由で2013年12月にユネスコ無形文化遺産に「和食」が登録されました。

「和食」の特徴の一つに挙げられている「食材とその持ち味の尊重」一汁三菜を基本とする食事スタイルや「うま味」を上手に使った健康的な食事は世界的にも注目が置かれています。

手間をかけないで「昆布やカツオから出汁をとる」方法もあり、大切に受け継いでほしいと願っているのに、NHKの番組で全否定されたようでとても悲しいです。

劣化していく食、劣化していくNHK(とてもいい番組もたくさんありますが)、命をつむぐ食を取り戻すために、無形文化遺産に登録された「和食」の意味を理解し、もう一度NHKに「うま味」についての番組を作って頂きたいと思います。

「やんばるの森」の日常を取り戻すために・・・ ラベンダー 2016.1

「やんばる亜熱帯の森」は世界自然遺産登録候補地のひとつです。ここは国の特別天然記念物の重要な生息地であり、福地ダム・新川ダム等県民の貴重な水がめです。また、日本一おいしいといわれるパイナップルの産地でもあります。(ほんとうに美味しい！)

そんな東村高江(ひがしそんたかえ)で多くのヘリパッドが造られています。

そもそも「ヘリパッド」を「ヘリポート」と言わないのは、沖縄県の環境アセス条例では長さが30m以上の「ヘリポート」はアセスの対象となりますが、「ヘリパッド」ということでアセス条例を逃れることができるためです(オスプレイパッドは直径75m)。

高江の集落は15のヘリパッドに加え、新たに4ヶ所をつくることで計19ヶ所のヘリパッドに囲まれることとなります。高江のヘリパッドはオスプレイパッドとして一段と機能強化されています。工事が進められているG・H・N1地区は、水域からの進入、上陸、偵察訓練に加え、パラシュート訓練も加わる可能性が強い。辺野古

と伊江島と高江を結んでの空・海・陸一体となったオスプレイとF35 ステルス戦闘機の大訓練拠点を狙っているといわれています。オスプレイは2014年から配備され、現在36機配備、将来は100機に増えるらしい。

やんばるの森での訓練は、6つのコースがあるという。生き残りのサバイバル訓練は、ナイフと水筒だけで食料なしで5日間かけて脱出するコースです。

このような役目を持ったヘリパッドの新設を許すわけにはゆかないと2007年よりヘリパッド反対運動が起こりました。

「反対したい一番の理由はここで戦争の訓練をしている、やんばるの森をそういう場所にしたくないんです。訓練を受けた兵士が戦争に行き、人を殺すわけですよ。それを見て見ぬふりをするのは、僕らも戦争に加担しているという気持ちになります」と高江の住人の声。



反対運動は今年で10年目、参議院選挙で現職閣僚に10万6400票の大差でオール沖縄の伊波洋一さんが圧勝した翌日の7月11日未明からヘリパッド建設工事が強行再開されました。7月21日はN1ゲート前での「ヘリパッド反対県民大会」に1,600人が参加しました。翌日22日には県外からの500人の機動隊と県警合わせて800人が投入され、暴力的に住民が排除されました。街宣車から逆さに引き摺りおろされた人、首に縄をかけられ失神した女性・

それを見ていた女性も失神、殴る蹴るで数人が緊急搬送されました。「あれだけの暴力を振るうことができるのかと警察の暴力に心が折れ、怖さと仲間たちの姿に胸が張り裂けそう」と。

ヘリパッド増設に3地区で計24,000本の立木を伐採するようです。多くの森林が伐採され、土砂も運びこまれましたが工事は半分以上残っています。高江では工事を強行するため数々の法令違反・過剰警備等警察権の乱用等有り得ないことが行われています。道路交通違反では、建設作業員が運転するレンタルトラックの荷台に機動隊員20名あまりを乗せて移動、警察車両が作業員を乗せて移動、ダンプカーの過積載等。工事が進められている箇所では動物2,086種以上、植物1,000種以上の希少種、絶滅危惧種が生息しており、日本環境管理基準や文化財保護法に違反。胸の高さで直径4cm以上の立木の伐採は1本1本手続きが必要であるが無視。北部訓練場では生息している動物が移動できるように「2ヶ所以上の工事を同時に行わないこと」という環境アセスメントを無視

高江で4ヶ所同時にヘリパッド建設を行う政府の姿勢に伊波洋一さんは、「環境アセス等を一切無視して、しゃかりきになって山を削り、木を切ってブルを入れて、年内に完成させようとしているが、自分たちの都合や手柄作りに邁進している姿をみると哀れだ」と。

やんばるの森では9月から毎週水・土に「ダンプカーを一台もいれない集中行動」を開始しました。毎回200人以上の参加があり工事は中断されました。この行動が毎日できれば工事は遅れますが那覇から3時間、通うにはお金も時間もかかる山奥。それでも毎日、全国の仲間が「いてもたってもいられない」気持ちで駆けつけてきます。各県でのスタンディング抗議、Faxでの抗議等様々な反対運動も広がっています。

「ひたすら座りこむ」「ぬかれたらまた座りこむ」今日もやんばるの森では「♪ハンタイシーガルチャービタル♪」(新基地を反対するためここにきているよ～)と歌って踊っているでしょう！！

原発事故から12年「3.11子ども甲状腺がん裁判」 ラベンダー 2023.4

昨年5月26日、原発事故で被曝し甲状腺がんを発症したとして、東京電力に損害賠償を求める「3.11子ども甲状腺がん裁判」が始まりました。原告は6人から1名増え7人になりました。(事故当時6歳～16歳)

小児甲状腺がんの年間発症数は100万人当たり1～2人程度なのに対し、原発事故後の福島では約38万人の検査で 300 人以上も見つまっている、しかし国も福島県も因果関係を認めない。

1月25日、第4回の口頭弁論で意見陳述に立った当時中学生と小学生だった男女2人のあふれる気持ちをこらえての訴えです。



男性は大学2年のとき甲状腺乳頭がんと診断され「甲状腺がんは深刻な病気ではないと言われているが、自分の場合、4回手術を受けている。……2回目の手術後、首や腰、臀部の激痛、尿道カテーテルで腫れ上がるおなか、喉から息が漏れて出せない声、痛みと恐怖、いっそう死んだ方が楽かもしれない。…何回(手術を)やっても、再発のリスクはなくなるのかと思う」と訴え「自分の病気が放射線による被ばくの影響と認められるのか、この裁判を通じて、最後までしっかりと事実を確認したい」と訴えている。

女性は「私がどういう人間なのか(裁判官)の目に焼き付けたい。甲状腺がんで苦しんでいる人の思いを私も含めた原告の声をしっかりと聞き入れてほしい」と目隠しのパーテーションを設けずに陳述に臨んだ。

女性は5回目の県民健康調査で甲状腺がんがわかり、手術後の24時間は寝返りや手足を動かすことができず、退院後も傷口が開くのではと「とにかく怖くて」と精神的にギリギリの状態だった。父親からこの裁判のことを聞き自分と似た境遇の人たちの存在に勇気を得た。

「つらい手術をうけている人、言われのない暴言を言われている人。このままだと曖昧にされたまま、終わりにされてしまう。自分が窮地を脱するためにも、立ち向かっていかなければと思いました」、最後に「裁判は事実を明らかにする場。(裁判官の)坂本三郎さん、野口晶寛さん、原健志さん、私たちはいま、匿名でたたかっていますが、一人ひとり名前があります。

私の名前はわかりますか。私たちがなぜ、このように立たざるを得なかったのか、理解してほしいです」と前を見つめた。
(食べもの通信 2023 年3月号より)



★3.11甲状腺がん子ども支援ネットワーク 公式サイト

<https://www.311support.net/>

人形劇で牡丹燈籠？恥ずかしいことに、私は牡丹燈籠が怪談話であること以外何の予備知識もなく観劇に臨んだ。

武芸者、飯島平左衛門の娘お露は、17才。浪人者の萩原新三郎に恋をし、その想いがあまりにも強くて焦がれ死ぬ。お露の後を追った女中のお米と共に、お露は毎夜カランコロンと下駄の音を響かせ、新三郎の元に現れる。幽霊のお露に怯えた新三郎は、部屋中にお札を貼り付ける。ところが新三郎の店子である伴蔵・おみね夫婦は欲にかられて百両(今の700万円から800万円)くれるなら、お札を剥がしてやろうと幽霊のお露にもちかける。

主人を裏切り百両を得、にわか成金になった伴蔵夫婦。だが生来怠け者の伴蔵は、入れあげた女郎にお金をつぎ込み、女房のおみねにばれてしまう。伴蔵はもう一度やり直そうとおみねを闇夜の堤に連れ出し、おみねの背後から刀で襲い殺してしまう。その瞬間、観客は息を飲み静まり返った。伴蔵は確かに甲斐性なしのろくでなしだけど、これまでみたいにまたおみねと一緒に生きていこうと言ったのは嘘だったの？と、伴蔵の非道さに私は凍りついた。

黒子と人形の一体感もさることながら、人形であるがゆえ、縦横無尽に空間を飛び交う3人の女の亡霊の迫力。人形ということをおぼえてしまうほど引き込まれてしまう登場人物の心の動き。

照明、音楽、猫や背景の植物等すべての小道具が効果を上げ、素晴らしい演目だった。

劇中で使われていた夏椿は別名、沙羅双樹と呼ばれ、釈尊が涅槃の際、四方の東西・南北に生えていた双樹がそれぞれ一樹となった、というのが、『牡丹燈籠』では、お露と新三郎、伴蔵とおみね、という二組の男女の愛憎と怨念を象徴のように感じられた。

現代のスターなんて、この話の前では吹っ飛んでしまうほどの、人間の情念の恐ろしさを感じた。死んでからもつきまとい、愛する者を殺してしまうお露の執念。長年連れ添った糟糠の妻を簡単に殺してしまう伴蔵の残酷さと愚かさ。ああ、人間って昔も今も何も変わらないんだなあ、と切なくなった。

皮肉なことに、伴蔵の入れあげていた女郎は足の不自由な夫と寄り添い故郷へ向かう。二人の姿が作中、唯一の救いを感じられた。

とにかく上演中ずっと舞台上に惹きつけられ、あっという間の二時間だった。おそろべし、人形劇！



シルバーウィークの中日、軽い気持ちで観たこの映画に言葉を失うほどの衝撃を受けたので是非ご紹介したい。

原作は、『容疑者Xの献身』『白夜行』でお馴染みの東野圭吾の1995年の作品。

ストーリーは、自衛隊の最新大型ヘリコプター「ビッグB」が、何者かに遠隔操作されて動き出し、福井県の高速増殖炉「新陽」の真上に制止する。

「天空の蜂」を名乗る犯人の要求は、国内の原発全てを廃棄すること、従わないと爆発物が搭載された「ビッグB」を原発に墜落させるという。しかも「ビッグB」には、偶然設計士の湯原(江口洋介)の子供、高彦が乗っている。800メートル上空の命をかけた自衛隊の救出作戦、事件解決に向かって、湯原、原発の設計士の三原

(本木雅弘)、刑事(柄本明)、自衛官たちのぎりぎりのせめぎあいにも何度も息をのむ。実行犯の元自衛官、今は雀の涙ほどのお金で汚染水の処理をする原発作業員の雑賀(綾野剛)の姿を通して、作中の「弱いものに負担を押し付けてはいけない」という言葉が、胸に沁みだした。

私達は本当はわかっている。原発のこと、沖縄基地のこと、戦争のこと、待ったなしでやめなければいけないことを。でも人間は、自分たちの聞きたくないもの、知りたくないもの、都合の悪いもの、面倒なものには、「見ない、聞かない、知らない」ふりをする。

それでもこれでは絶対にだめなんだ、と今若者から大きなうねりを感じる。でも本当は声を上げることは、若者だって怖いんだと思う。すごく不安だろう。

じゃあこれまで何もしてこなかった大人ができることは何だろう？せめてそのうねりが途絶えないように、進んでいる道は間違っていないよと励まし、支えてあげること、共に歩くことではないだろうか？

二転三転する迫力ある展開に、人間ドラマや日本の現実を問題提起させたこの映画は、きっと観た人の心に何かを呼びおこすに違いない。

ひたすらの善意

童わらべ 光子 (西神南) 2017.12

先日、ある新聞の「ひたすらの善意」という言葉に注目し、集いで、また友人との会話でつい何回か繰り返してきました。時々、背中を押されたり、自分の気持ちを整理できる言葉にこだわる癖があります。

団塊の世代として生まれ 58 歳までブラックとは言いませんがグレー企業で働いてきました。仕事の場面で、その他の人との出会いの中で私は人の善意をたくさん感じて生きてこられた方だと思っています。そんな私が、平和や、人間らしく生きられる環境を考え続ける人たちに促され街頭で見知らぬ人にチラシを配り、署名をお願いする行動に参加します。私がそれに毎回躊躇を感じながらも綿々と継続するのは行動を提起してくれる人たちはもちろん、また、チラシを受け取る、署名をする人に人間の善意を感じる事が出来るからです。人の命に思いを馳せ、自分を含む多くの人が幸福に生きられる環境の継続を、漠然と、または確たる持論と共に望む人との接点がこの集いや、街頭行動にはあります。西神ニュータウン 9 条の会の人たちは自画自賛を嫌うと思うのですが、「ひたすらの善意」をひろげようと考え、工夫し、動くことができる本意と力をこの会に感じます。



一方、憲法改悪をなんとしても達成させたい現内閣には「ひたすらの悪意」を感じるのです。人の命に、人の未来に無頓着な人間の集団です。災害救助で懸命に働く自衛隊の人たちをどんなに讃えても同じ人たちが戦地に行く法律をつくり、憲法改悪が最終章です。世界の“命”に何もできていない私ですが、憲法改悪阻止を願う根本は一人の“人”の命です。「冬になれば北朝鮮への制圧は効果が増す」という安倍首相の発言にも言えず暮らす北朝鮮の人たち(拉致された人)への想像しない薄っぺらさ、冷酷さに、今更ですが憤りを感じますし、日本の民への想像もまったく同じものだと私は思います。

前に戻りますが、多くの人の裡にある無意識かもしれない、整理されていないかもしれない「善意」は日本国憲法に、憲法 9 条につながりはしないだろうかと思いつつ日々過ごしています。ですが、少し聞き違えたのではとも思うのですが、「ひたすらの善意」の話の切り返しの娘の一言、「ひたすら続けたらいつか、事が通なうと思うのはちがう」も痛く胸に響きました。切迫する憲法改悪の岐路にある今ですから。